JR東日本カップ　2005　第79回関東大学サッカーリーグ戦（前期）　1部リーグ　第11節

KOMAZAWA　KOKUSHIKAN

駒澤大学4－1国士舘大学

「宮崎がいなかったら負けていたのでは」と牧野も賞賛。勝利に大きく貢献した宮崎
（撮影・野澤俊介）

宮崎ハットトリックの大活躍！！

価値のある90分

試合後、ロッカールームから出てくる選手たちの表情が一段と頼もしく見えた。駒大は試合中の課題として『攻守の切り替え』『ボールを丁寧に扱う』この二点が常に監督・選手たちの間で認識されていた。

この試合では、中盤でのパスミスで簡単にボールを奪われカウンターを受けそうになった時に、駒大攻撃陣の素早い守備への切り替えができ、前線から堅実なプレスをかけていた。よって国士大攻撃陣は思わず自陣にバックパスをするという選択しかなかった。「試合を重ねるごとにやらなければいけない事とか、チームとしてやる事が再認識できて、良くなってきている」と**牧野**が言うように、選手たちの間で確実に共通の意識が生まれ、『チームプレー』への意識の高さが見て取れた。また、セットプレーや相手陣内に攻め入った際に、確実にシュートで終わらせていた。これは駒大が試合で放った14本というシュート数からも見られる。そして、そのうちの半数となる7本を放ったのが**宮崎**であった。**宮崎**は9分のフリーキックからのゴールをきっかけに、「点を取るところは取る」と、その後も得点を重ね、小学校以来だというハットトリックを達成。この攻守にわたる活躍に**秋田**監督は「（**宮崎**は）気持ちが出ていた」。そして、チームに対しても「ボールを速く回し、外から攻める攻撃もできていた」と評価した。狙い通りのサッカーを展開し、『ボールを丁寧に扱う』という課題もクリアしていた。

結果的に、得失点差で前期リーグの首位に立ち、総理大臣杯出場の権利を獲得。「3－1からの最後の1点があの時間帯に取れたという事は、チームとして成長した」（**桑原**）。80分の**鈴木亮**のゴールが、駒大に多くの意味を持つ『1点』となった。

（永田　博義）